

#5 神は彼のすべての民が今日のナジル人になることを願う(民数記結晶の学び) 2019/3/25-31

I. 人類の間の唯一のナジル人は、主イエスです。このゆえに、ナジル人は、人性において神のために絶対的に生きたキリストの予表です：**民6:2** イスラエルの子たちに語って言いなさい、「男でも女でも特別な誓願、ナジル人となる誓願をして、自分をエホバへと分離するときは」。

A. 主イエスは彼の人の生活において、生涯、バター(最も豊富な恵み)と蜜(最も甘い愛)を食べました。主イエスは御父の、この最も豊富な恵みと最も甘い愛によって、御父のみこころという善を選び、悪を捨てることができました。**イザヤ 7:15** 彼はバターと蜜を食べ、いかに悪を捨て、善を選ぶかを知るに至る。B. 人が、御父のみこころを選んで、何かを放棄し、自分自身を否んで、困難な事を選ぶことができる理由は、その人の背後に大いなる強める力があるからです。すなわち、キリストを最も豊富な恵み、また最も甘い愛として享受しているからです。【月】

II. 神が願っているのは、神のすべての民がナジル人になることです。ナジル人になることは、絶対的に、また究極的に神へと聖別され、分離されること、すなわち、神以外の何もののためでもないこと、彼の満足以外の何ものためでもないことです。これはイエスの証しです：A. ぶどう酒やその源と関係があるあらゆるものを断つことが表徴しているのは、あらゆる種類の地的な享受や楽しみを断つということです：**民6:3-4** ぶどう酒や強い酒から自分を分離しなければならない。ぶどう酒の酔や強い酒の酔を飲まず、どのようなぶどう液も飲まず、もぎたてのぶどうも干しぶどうも食べてはならない。自分を分離している間中、ぶどうの木から生じるものは、種や皮でさえ何も食べてはならない。1. ナジル人は、あらゆる地的な楽しみから完全に分離されています。

2. 私たちは日ごとに、キリストを私たちの新しいぶどう酒(神の生き生きさせる命と喜ばせる愛)として享受しなければなりません。それは、私たちが神の満足のために注ぎのささげ物として、神に注ぎ出されることができるためです。【火】

B. 頭を剃らないことが表徴するのは、主の頭首権を拒絶せず、主の頭首権に絶対的に服従し、また神によって立てられたすべての代理権威に絶対的に服従することです：**1コリント11:3** あなたがたに知ってもらいたいのですが、キリストはあらゆる人のかしらであり、男は女のかしらであり、6…もし、自分の髪を切ったり、剃ったりするのが、女にとって恥ずかしいことであるなら、おおいをきなさい。1. 「万物は彼にあってまとまっています。…そして御子は、召会であるからだのかしらです。…それは彼ご自身が、万物のうちで第一位となるためです」(コロサイ1:17-18)。2. 「かしらに結び付いて…この方から、からだ全体は、節と筋によって豊かに供給され、結合され、神の増し加わりによって成長するのです」(コロサイ2:19)。3. キリストで満たされることは、服従で満たされて、服従の霊、立場、雰囲気、意図を持つことです。もしあなたがこのような人であるなら、あなたとあなたの将来には大きな祝福があるようになるでしょう。4. 主の頭首権の下にいること、さらには、ある人、あるもの、ある環境の下にいることは大きな祝福です。5. 服従には力があります。【水】

C. 血縁者の死によって汚されるのではなく、分離の中にとどまって神に対して聖なるものとなることが表徴するのは、ナジル人が天然の愛情に打ち勝つということです：**民6:6-7** 彼は自分をエホバへと分離している間中、死人に近づいてはならない。父や母、兄弟や姉妹が死んだときにも、彼らのために自分を汚れたものとしてはならない。その頭には神への分離があるからである。1. 神は、私たちが天然の愛をもって愛するのではなく、私たちの愛としての彼をもって愛することを願っています。2. パウロとバルナバとの間の問題は、天然の関係を伴う天然の命によって引き起こされました。

3. 私たちは、天然の人とその天然の熱心さ、天然の愛情、天然の力、天然の能力のあらゆるものから自分自身を分離する必要があります。それは、私たちが神の唯一の証しのために自分の霊の中で、霊によって生き、霊によって歩き、霊によって仕え、霊によってあらゆる事を行なうためです。D. 死人に近づかないこと、あるいは自分のそばにいる人の突然の死によって汚されないことが表徴するのは、ナジル人が死から分離されているということです：1. 神の目に最も憎むべきものは死です。2. 召会生活の中で、神の民の間にさまざまな種類の霊的な死が広がるかもしれません。それは野蛮な死(獣の死体)、温和な死(家畜の死体)、あるいは、こうかつな死(這うものの死体)です。3. 私たちは死から救われるために、思いを霊に付けて、私たちの霊に注意を払い、霊を顧慮し、霊を用いなければなりません。4. 私たちは死から救われるために、私たちの霊を活用して祈ることによって、「死に抵抗すること」をもって、命を与える霊としてのキリストをもって満たされなければなりません。5. もし私たちがある予期しない死によって汚されるなら、自分自身を主に再び分離することによって、新しい献身を伴う新しい開始を持つ必要があります。【木】

III. 聖書には二人のナジル人(サムエルとサムソン)の対比があります：A. サムエルは、忠信なナジル人の積極的な模範です：**サムエル上1:1** 彼女は誓願を立てて言った、「万軍のエホバよ、あなたが…あなたのはしために男の子を授けてくださるなら、私は彼を一生の間エホバにささげ、かみそりを彼の頭に当てません」。2:35 私は私のために、忠信な祭司を起す。3:20 全イスラエルは、…サムエルがエホバの預言者に立てられたことを知った。7:15 サムエルは一生の間、イスラエルを裁いた。1. ハンナの祈りは、神の心の願いに呼応し、それを語り出すことでした。それは、人が神聖な行動に協力することであり、神の永遠のエコノミーを完成するためでした。a. 神は、命の路線において神と一であった人であるハンナを動機づけることができました。神はこのような人を得ることができさえすれば、地上で道を得ます。b. ハンナの祈りが示していることは、神の行動とハンナの祈りに対する彼の答えが、神の願いを成就するために絶対的であるナジル人を生み出すことであったということです。ナジル人は、絶対的に神にささげられている人、神をかしらとして、神を自分の夫と考える人、この世の楽しみや享受に何の興味も持たない人です。2. サムエルは、地上で神と一でした。彼は代理の神として、すなわち、天にいる神の代行として務めをし始めて、地上にいる神の民を治めました。3. サムエルは、神の定めにおいて新しい祭司であり、新しい預言者でした。彼の語りかけは、時代を変えました。それは革命を通してではなく、神聖な啓示を通してであり、王職をもたらすためでした。a. サムエルは、神のエコノミーの成就のために絶対的に神にささげられたナジル人として、また自発的に自分をささげた者として務めをして、神に公に形式的に仕えているあらゆる者を置き換えました。b. サムエルは、神を尊び、神を喜ばせる祭司として務めをして、腐敗し堕落した祭司職を置き換えました。c. サムエルはエホバの言葉がまれであり、ビジョンが広く行き渡っていなかった時、預言者として務めをして、神の言葉を語りました。d. サムエルは、王職の実際における土師として務めをして、古い腐敗した祭司職による民の裁きを置き換えました。e. サムエルは、祈りの人として務めをして、神の選民のために祈り、彼らが神の道にとどまるようにしました。それは、神の選民にある神のみこころの願いが成就するためでした。【金】

4. サムエルは、神の心にかなう人でした。神の心は彼の中に複製されていたので、彼は純粋で単一でした。【サムエル】

上13:14 あなたの王国は続かない。エホバはすでに彼の心にかなう人(ダビデのことを言っています。サムエルは神の心にかなう人として、ダビデをもたらしました)をご自身のために捜して、エホバはその人を彼の民の支配者に任命しておられる。これは、エホバが命じられたことを、あなたが守らなかったからである。**5.** サムエルの行ない、生活、働きだけでなく、彼の全存在とパースン全体が神にかなっていました。彼の存在と神の心は一でした。彼は地上における代理の神でした。**6.** 神の思いは、サムエルの考えでした。彼は他の思考や考えを何も持っていませんでした。**7.** サムエルは、全く自分自身のために何も求めませんでした。彼は決して自分自身のためにどのようなものも得ようとしませんでした。**8.** サムエルは、神の心と神の選民以外のどのようなものに対しても心を持っていませんでした。彼の心は、神の心の反映であり、彼の生活と働きは、何であれ神の心の中にあるものを遂行するためでした。**9.** サムエルは、自分の子孫のために王国を建て上げる心を持っていなかったため、神が王国をもたらすのは容易でした。こういうわけで、サムエルは時代を転換させる者であったのです。**10.** サムエルは、彼の特定の環境の中で、神のために立つことが容易でなかったにもかかわらず、神の権益を顧慮して、時代を転換させました。旧約によれば、サムエルは神と神の権益のためであったという点において、モーセと同列に置かれています。

エレミヤ 15:1 エホバは私に言われた、「たとえモーセとサムエルが私の前に立っても、私の魂はこの民に向かない。彼らを私の前から追い出し、行かせよ」。**B.** サムソンは、ナジル人の消極的な例です：**1.** サムソンの起源は、エホバの御使いが現れることによって開始された奇跡でした。**2.** サムソンは、彼の母の胎にいる時に聖別されて、ナジル人となりました。**3.** サムソンは、神の定めにしたがって成長し、清く、純粋でした。**4.** サムソンは、聖なるエコノミー上の霊としての神の霊によって力づけられました。**5.** サムソンは、命の霊においてではなく、力の霊において行動した者の例証です。彼はとても力強かったのですが、私たちは彼のような命のものも見ることができません。**6.** サムソンは、神と接触しなかったことで、また肉の情欲にふけたことで失敗しました：**a.** サムソンは、配偶者を求めることにおいて純粋ではありませんでした。そうではなく、彼が女と接触したことは、自分の情欲にふけることでした。**b.** サムソンは、神によって力づけられましたが、情欲にふけたゆえに極みまで損害を被りました。**c.** エホバは最終的に、サムソンを去って、サムソンはみじめな終焉を迎えました。なぜなら、彼はどのようにして自分の肉の情欲を制限するかを知らなかったからです。**7.** ナジル人は、神の霊が激しく臨むことを必要としません。そうではなく、ナジル人は神の心の反映である心を必要とします。【土】

用語の説明:ナジル人:ナジル人の誓願は、祭司職の墮落に対する特別な備えです。祭司職が古くなり、腐敗し、墮落した時、主はある人たちが特別な誓願、すなわちナジル人になる誓願をして、ナジル人の祭司になることを必要としました。

死によって汚されない:死は神の目に最も憎むべきものなので、ナジル人は自分自身を血縁者の死体から分離する必要があります。これは天然の人とその天然の熱心さ、天然の愛情、天然の力、天然の能力のあらゆるものから自分自身を分離する必要があることを示します。また、あらゆる種類の死から遠ざかり、それを広めないようにする必要があります。うわさ話、批判、つぶやきのような消極的な事柄と接触すればするほど、私たちは死んでしまいます。集会の中で死を感じるときはすぐに霊の中で祈り、抵抗する必要があります。

1. 高い福音 第九課 キリストの贖い

ヘブル9:12 やぎや子牛の血を通してではなく、ご自身

の血を通して、一度で永遠に至聖所へと入り、永遠の贖いを獲得されたのです。**エペソ1:7** その愛する者の中で、私たちは彼の血を通しての贖い、すなわち違犯の赦しを受けています。これは、神の恵みの豊富によります。神の贖いの方法は死を通してである：聖書によれば、神の義は、すべての罪が裁かれることを要求します。義しく罪が裁かれる唯一の道は、死ぬという方法によってです。**ヘブル9:22**は言っています、「**血を流すことがなければ、赦しはない**」。神が私たちの罪を裁き、赦すためには、血が流されなければなりません。すなわち、死ぬ必要があるのです。死ぬということがなければ、贖いのどんな方法も、神の義の要求を満たすことがなく、神の水準に達しません。

過越の小羊としてのキリスト:この贖いのみわざの最上の絵は、キリストが神の過越の小羊となられたことに見られます。旧約において、イスラエルの子供たちは、束縛と奴隷の地であるエジプトにいました。エジプトの王にイスラエルの民を解放させるために、神は地を行き巡って、すべての家の長子を殺そうとされました。神はイスラエルの民に小羊を殺し、血を家の門柱に塗るよう命じられました。その夜、神の御使いはその地を巡って、その地に裁きを行ないました。門柱に血が塗られていない家はみな、長子が殺されました。しかし血の覆いの下にある人たちは救われ解放されました。聖書は、彼が「世の罪を取り除く神の小羊」である、と言っています。**罪に対する神の裁きを担って、十字架上で死なれる:**彼は十字架につけられた時、神に拒まれました。このゆえに彼は十字架上で叫ばれました、「わが神、わが神、あなたはどのように私をお見捨てになったのですか?」。彼は罪なき神の御子でした、しかし神に捨てられたのです。彼はご自身の罪のゆえにではなく、全人類の罪のゆえに、神に裁かれたのです。

キリストの血は人のために語り、平安を与える:聖書は、キリストの血は私たちのために語ると言っています。ちょうどそれは、法廷で被告のために語る弁護士のようなのです。この血を通して、神の義の要求が満たされたので、神は平安です。神が平安であるなら、私たちの良心も平安です。キリストの贖いがどのようにして神を全く満足させたかを見るなら、あなたは神に対して平安があるでしょう。キリストの贖いによって、神は人の罪を赦されたのです。神が人の罪を赦される時、それを忘れてしまわれるのです。神の赦しは、神が忘れてくださることです。神は何でもすることができますが、キリストの贖いを信じた者たちの罪を覚えておくことはできません。キリストの贖いを信じる者は、神の前に洗われ、義とされ、清められ、解放され、汚れがなく、しみのない者とされるのです。詩歌94主を賛美する-彼の贖い(HPに録音があります)

1. 主よ、ながあがない、いかに奇しき、だれかおもいしや、だれか見しや? なれはおく義、神聖、じん知を超ゆ! ああ、ながあがない、いかに奇しき! (復) 何という不思議! ながあがないは、何というえい光! 新そうぞうは
2. わがため十字架で なれは裂かれ、みずと血をながし、いのち分与す。なが血にあらわれ、受け入れらる; われらさい生され、なれとひとつ。
5. われらパンさきで するしを見て、満ち満ちる感謝と、賛美、禁じ得じ! われらながからだ 住まい、はい偶、この感げきのゆえ、れいはいする。

Crucial Point①:主は生涯、バター(最も豊富な恵み)と蜜(最も甘い愛)を食べて、善を選び、悪を捨てることができました

OL1:主イエスは彼の人の生活において、生涯、バター(最も豊富な恵み)と蜜(最も甘い愛)を食べました。主イエスは御父の、この最も豊富な恵みと最も甘い愛によって、御父のみこころという善を選び、悪を捨てることができました。イザヤ 7:15 彼はバターと蜜を食べ、いかに悪を捨て、善を選ぶかを知るに至る。**OL2:**人が、御父のみこころを選んで、何かを放棄し、自分自身を否んで、困難な事を選ぶことができる理由は、その人の背後に大いなる強める力があるからです。すなわち、キリストを最も豊富な恵み、また最も甘い愛として享受しているからです。

私たちは四福音書を読むとき、主の外側の生活が何とすばらしく完全であったかを見ることができます。ところが四福音書からは、主がなぜそのような卓越した外側の生活をされたかを告げることはできません。…私たちはこれらの質問に対する答えを、イザヤ書7章から見いだすことができます。…15 節は、主が全生涯、バターと蜜を食べたと告げています。彼は全生涯、バターと蜜を食べたので、善を「選び」、悪を捨てること「でき」ました。こういうわけで、彼は神に従い、神の栄光を求め、神の心をとらえることができたのです。

私たちの主は十二歳の時、彼の両親と一緒にエルサレムに行き、祭りを守られました。祭りの後、彼の両親は戻りましたが、彼はエルサレムにとどまられ、両親はそのことを知りませんでした。後ほど、彼の両親はエルサレムに戻って彼を捜しました。三日後に、彼らは彼を宮の中で見つけました。彼の母は言いました、「子よ、あなたはどのようにして、私達をこんな目に遭わせたのですか？ ご覧、あなたのお父さんも私も、とても心配して、あなたを捜していたのです」(ルカ 2:48)。

主は十二歳の時、すでに御父を知っておられました。彼は天のバターと蜜を食べておられました。彼は最も豊富なものと最も甘いものを受けて、神のみこころの中で生きておられました。私たちであれば、こう言ったでしょう、「あなたがたはナザレに戻って、大工の仕事と家事をなさなさい。私は行きません。私に宮の中にとどまらせてください」。私たちの主はこのようには振る舞われませんでした。彼は語り、証ししましたが、彼らと一緒に戻られました。彼はナザレに戻った後、彼らに服しておられました。彼が困難な事を選ぶことができたのは、神が彼に最も豊富で最も甘い味わいを与えておられたからです。

適用: 中高生、大学生編

神のエコノミーは、キリストの中で神ご自身を人の中に分与して、人が他の人と共に建造されて、神を団体的に表現することです。イザヤ 7:15 は神のエコノミーを説明する重要な言葉です。中高生のあなたは、主イエスの模範に倣い、若い時から全生涯の毎朝、バター(最も豊富な恵み)と蜜(最も甘い愛)としての主イエスを食べることを学んでください。キリストを食べて養われて、悪を捨て、善を選ぶことができます。バターと蜜を食べずに、自分の力で悪を捨て、善を選ぼうと努力しても、それを実行することはできませんし、それは神のエコノミーではありません。

悪を捨てるとは、「(1) 反逆、(2) 高ぶり、(3) 個人主義、(4) 勉強したくないこと、(5) 主を食べる生活である召会生活を愛さないこと、(6) 両親を敬わないこと、(7) 情欲に従った生活、(8) うわさ話や批判などを好み死に触れる生活」などを捨てることです。善を選ぶとは、「(1) 服従、(2) へりくだり、(3) 召会や兄弟姉妹の益を求めること、(4) 勉強に励むこと、(5) 主を食べる召会生活を愛すること、(6) 両親を敬うこと、(7) 情欲を十字架に付けて霊に従う生活、(8) うわさ話や批判などの死に触れない生活」などを選ぶことです。悪を捨

て、善を選ぶことは決して簡単なことではありませんが、バターと蜜としてのキリストを食べれば内側から力が湧いてきて、あなたはそれを実行することができるのです。

祈り:「おお主イエスよ、私は自分自身を主にささげます。全生涯の毎朝、バターと蜜を食べることができますように。食べない日は、悪を捨て、善を選ぶ力がありません。しかし主を食べれば、内側に力があり、悪を捨て、善を選ぶことができ、主を表現することができます。これが私に対する神のエコノミーです。ハレルヤ！主を賛美します！」

Crucial Point②:主の頭首権の下にいること、さらには、ある人、あるもの、ある環境の下にいることは大きな祝福である

OL1:キリストで満たされることは、服従で満たされて、服従の霊、立場、雰囲気、意図を持つことです。もしあなたがこのような人であるなら、あなたとあなたの将来には大きな祝福があるようになるでしょう。**OL2:**主の頭首権の下にいること、さらには、ある人、あるもの、ある環境の下にいることは大きな祝福です。**OL3:**服従には力があります。

墮落した種族は反逆の種族です。反逆の性質はまだ私たちの内側にあります。ですから、代理権威のない状況にあるのは危険です。こういうわけで、神は人の統治を設立されました。すべての統治は代理権威であって、神の権威を代行します。パウロはこれについて語って言います、「すべての人は、自分の上にある権威に服従しなさい。なぜなら、神によらない権威はなく、存在している権威はみな、神によって定められているからです。ですから権威に逆らう者は、神の定めに従うのであり、」(ローマ 13:1-2)。教師、雇い主、警察官は代理権威です。地上のあらゆる所に代理権威があります。

代理権威というこの事柄を召会に当てはめてみましょう。召会の中に代理権威はあるのでしょうか？ もし召会の中に代理権威がないのであれば、なぜ長老がいるのでしょうか？ 最近、ある人たちは、新約に代理権威はないと言いました。もしそのような主張が本当であれば、なぜ新約は召会の中に長老がいると告げているのでしょうか？ 確かに、キリストはかしらであり、権威はその霊ですが、私たちはなおも召会の中に長老を必要とします。長老がいなければ、召会は無政府状態になるでしょう。

ナジル人の二つの際立った特徴、あるいは二つのしるしは、第一に、彼がいかなる世的な楽しみにも触れないこと、第二に、常に自分自身をある権威の下に保つことです。これらは厳粛な事柄です。神のために絶対的な者として、私たちは地的な楽しみを断つべきです。さらに、私たちは自分の頭を剃ってはなりません。すなわち、権威を重んじ、あらゆる面で、主の頭首権の下にとどまっていなければなりません。

適用: 青年在職、大学院生編

エペソ 4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。**6:5** 奴隷たちよ、キリストに従うように、恐れとおのきをもって、あなたがたの単一な心で、肉によるあなたがたの主人に従いなさい。**6** 人にへつらう上辺だけの仕方ではなく、キリストの奴隷として、心から神のみこころを行ない、**7** 人にではなく、主に仕えるように、奴隷として善意をもって仕えなさい。あなたが、かしらである主の中に成長するとは、かしらに服従することを含みます。成長するために服従で満ちるべきです。また、あなたは上司、教授などの代理権威に服従することで、キリストを経験し、神の祝福にあずかることができます。召会生活においては、召会の長老、責任者たちや地区の責任者に服従する必要があります。

例えば、会社ではあなたの会社の社長方針や部署の部長方針に従うべきです。そうでないと、あなたは根本的に反逆の立場で働いていることとなります。それはサ

タンのポジショニングを取ることですので、あなたは神の裁きの下にあることとなります。あなたが業務を遂行する時、レバレッジ(テコ)の力を効かせるために、会社の力や部署の力(これらの力はあなたの個人の力よりはるかに大きい)を活用しなければなりません。そのためには、あなたは先ず上司の部長や会社の社長の方針に服し、自分の個人の意見を十字架に付ける必要があります。

祈り:「おお主イエスよ、私は主の命の中で成長するために、かしら、キリストに服従する必要があります。さらに主に服して、上司にも服従することを学びます。そうすることで、私はサタンの反逆とは違う立場に立つことができ、神によって大いに祝福されます。アーメン！」

Crucial Point③:サムエルとサムソンの対比はあなたに対する励ましと警告である。あなたは思いを霊に付けるべきである

OL1:ハンナの祈りが示していることは、神の行動とハンナの祈りに対する彼の答えが、神の願いを成就するために絶対的であるナジル人を生み出すことであったということです。

OL2:サムエルは、地上で神と一でした。彼は代理の神として、すなわち、天にいる神の代行として務めをし始めて、地上にいる神の民を治めました。**OL3:**サムエルは、神の定めにおいて新しい祭司であり、新しい預言者でした。彼の語りかけは、時代を変えました。それは革命を通してではなく、神聖な啓示を通してであり、王職をもたらすためでした。**OL4:**サムエルは、神の心にかなう人でした。神の心は彼の中に複製されていたので、彼は純粋で単一でした。**OL5:**サムエルは、祈りの人として務めをして、神の選民のために祈り、彼らが神の道にとどまるようにしました。それは、神の選民にある神のみこころの願いが成就するためでした。**OL6:**サムソンは、神と接触しなかったことで、また肉の情欲にふけたことで失敗しました。**OL7:**エホバは最終的に、サムソンを去って、サムソンはみじめな終焉を迎えました。なぜなら、彼はどのようにして自分の肉の情欲を制限するかを知らなかったからです。

人の側で、サムエルの起源は神を礼拝する彼の両親であり、特に神を追い求める彼の母と彼女の祈りでした。墮落したイスラエルの大混乱のただ中で、エルカナとハンナは、神が彼の永遠の定められた御旨のために定めた命の路線にとどまりました。命の路線は、キリストを生み出して神の民に享受させる路線であり、それは地上で神が彼の王国を持つためであり、それはキリストのからだとしての召会、三一の神の有機体です。ハンナの中での神の行動のゆえに、ハンナは男の子のために祈るまで、平安を持つことができませんでした。ハンナの祈りは、神の心の願いに呼応し、それを語り出すことでした。それは、人が神聖な行動に協力することであり、神の永遠のエコノミーを完成するためでした。神は、命の路線において神と一であった人であるハンナを動機づけることができました。神はこのような人を得ることができさえすれば、地上で道を得られます。

サムエル記上 7:2~6 の絵は、神に戻った民と、地上で神と一であった人、サムエルを見せています。サムエルは地上での代理の神として、すなわち、天にいる神の代行として、地上にいる神の民を治め、務めをし始めました。サムエルは、生まれつきレビ人であり、大きな反逆のコラの子孫の一人として生まれ、五つの身分で務めをしました。**(1)**絶対的に神にささげられたナジル人として、また自発的に自分をささげた者として務めをして、神に公に形式的に仕えているあらゆる者を置き換えました。**(2)**祭司であり、忠信に神のために行動し、地上での神聖な統治のために、王を立て確立することさえしました。**(3)**神によって立てられた預言者であり、祭司としての彼によって立てられた王を補助し、神の言葉を語って、古い祭司職による神の言葉の教えを置き換えました。

(4)神によって立てられた士師であり、神の行政上の統治を執行し、古い祭司職によって民を裁くことを置き換えました。

(5)祈りの人であり、神の選民、イスラエルの子たちのために祈り、彼らが神の道において守られ、神と一になり、諸国民の偶像によってわなにかかけられず、神を享受し、神の選民に対する神のみこころにおける願いが成就されるようにしました。

適用:勝利者になりたい全ての信者編

あなたが勝利者になりたいなら、サムエルと彼の母ハンナから励まされ、サムソンから警告を受けるべきです。ハンナの祈りは、神の心の願いに呼応し、それを語り出すことでした。それは、命としての神に触れることでした。サムエルは、彼の特定の環境の中で、神のために立つことが容易でなかったにもかかわらず、神の権益を顧慮して、時代を転換させました。一方サムソンは命としての神に接触しませんでした。また配偶者を求めることで純粋ではなく、情欲にふけりました。**II テモテ2:22** ただし、あなたは若い時の欲から逃れなさい。そして純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和を追い求めなさい。

ローマ 8:5 なぜなら、肉にしたがっている者は、肉の事柄を思い、霊にしたがっている者は、その霊の事柄を思うからです。**6** 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。

II コリント10:4-5 私たちの戦いの武器は、肉のものではなく、神の御前に力があって、要塞をも破壊し、神の知識に逆らい立っている議論や、あらゆる高ぶりを破壊し、あらゆる思想をとりこにして、キリストに対して従順にならせます。

肉に従っている者は、思いを肉に付ける者です。そのような人は、実際的にはサタンの消極的な言葉を聞き、心の中がサタンの言葉で満たされ、神に敵対します。ペテロは啓示を見た直後でさえ、思いを肉に付けて、主が十字架に付けられないように主をいさめました。主は直ちにペテロに、「サタンよ、私から退け! (マタイ 16:23)」と言われました。この時ペテロはサタンと一つになり、サタンの言葉を語っていたのです。思いを肉に付けることは非常に恐ろしいことです。あなたは思いを肉に付けた時に聞いたサタンの言葉を考慮すらしはいけません。むしろこのように祈ってください、「おお主イエスよ、私がサタンの言葉を考慮することは、それを受け入れることとなります。私はそれを徹底的に排除し、廃棄します。サタンから来た兄弟姉妹に対する、召会に対する消極的な感覚を私はゴミ箱に廃棄します」。このように祈って徹底的にそれを排除すべきです。あなたは絶えずミングリングされた霊を活用し、思いを霊に付けて、サタンの言葉を徹底的に排除し、主の声を聞き、主と交わって下さい。祈り:「おお主イエスよ、私が肉に従えば、肉のことを思い、サタンの言葉を聞く者になり、サタンと一つになってしまいます。私をサタンのささやきから来る欺きから徹底的に救ってください。そのために、私はサタンの言葉から来るあらゆる消極的な考えを考慮せず、徹底的に廃棄します。私をキリストと召会に反対するあらゆる感覚から徹底的に救ってください。サムエルの事例から励まされ、私を神のエコノミーを推進し、時代を転換する今日のサムエルにしてください。」

Hymn (New Song) In this godless age (HP に録音があります)

In this godless age Lord, You need some Samuels
Burdened with a vision clear of Your economy
Where's Your ark today? And the ones who'd care for You,
E'en to put themselves aside to gain Your heart's desire?
Raise up some to meet Your need, some Nazarites,
Prophets, priests, and judges, and men of prayer,
Speaking forth Your word, with Your authority,
A photo of Your heart for Your move.